



# もいおかYMCA ニュース

発行日 2000 5. 22



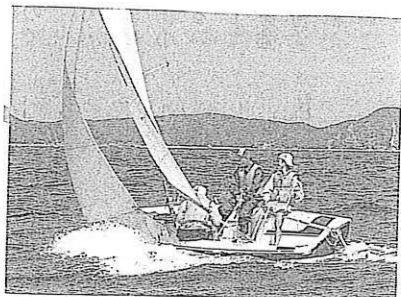
## YMCAキャンプ で育まれるもの①

不登校、いじめ、学級崩壊など教育現場における課題が注目されています。行政はこれまでの教育制度の見直しとともに、教育改革に着手し、学校はゆとりをもった体験に基づく学習の時間を子供たちとともに作りあげるべく模索し始めています。YMCAはまさにそうした教育の場を提供してきた団体です。私たちはこうした動きにどう答えるのでしょうか。全国のYMCAの取り組みなどを紹介しながらキャンプの意義、を考えていくコーナーです。



もりおかYMCA海の生活体験キャンプ

## こどもたちを自分の命の運転手に



大阪YMCA阿南国際海洋センター  
井之上 芳雄

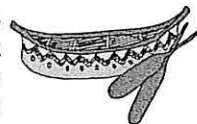
YMCA阿南国際海洋センターは、徳島県阿南市にある、海洋キャンプ場です。広大な海を舞台に、訓練された専門指導員のもと、多くの青少年に、海洋に対する深い関心と理解を深め、人生における知恵と勇気と創造力を養う研修の場です。

「生きる力をこどもたちに」と唱えられるようになってかなりになります。よほど今の子供たちにはその力が欠けているということなのでしょう。

私たちの海洋センターにやってくる多くのキャンパー、その大半は子供たちですが、彼らを見る限り決してそのようなことはないといつも思います。好奇心に満ちた目を輝かせ、楽しそうに大声を張り上げ、そして愉快地元気にはしゃぎまくる子供らしいこどもで一杯です。とくに元気なこどもたちだけが来るわけではありません。世間でいう日常生活に多くの悩みや問題、そしてストレスを抱えている子供たちに変わりはありません。やはり自然環境のなせる技なのでしょう。

阿南海洋センターの一番の特徴は、初めての人にも必ず自分でヨットやカヌーを操船してもらうことです。こどもたちが心底喜ぶ秘密はここにあります。なぜなら「板子一枚下は地獄」の怖い海の上で、適度な緊張感の中、自分の力を頼りに、勇気を出して思い切り遊ぶことができるからです。つまり、さまざまに守られすぎた日常生活では感じることのできない「自分の命」を実感することができるからです。

自分で自分の命を握っているという実感を味わうのです。子供の頭が覚醒する瞬間です。いつまでも人に命を預けたままの助手席ではなく、自分の命を握る運転手にすることが子供を元気にするコツではないでしょうか。それがキャンプだと思います。



## 地の塩

一人の男が夢を見ました。彼は死んで遠い、遠いところにいます。そこは、とても快適な感じのするところです。ちょっと休息してから彼は呼びかけました。「ここに誰かいますか」

するとすぐに白い衣をつけた人がでてきて尋ねました。

「何をご希望ですか」

「何かもらうことができますか」

「何でもあなたのご希望のものを差し上げられます。」

「では、何か食べるものを持って来て下さい。」

「何を召し上がりますか、ご希望のものは何でもございます。」

彼は、欲しかったものをきちんと運んでもらい、それを食べて眠り、すばらしい時間をすごしました。それから演劇を見たいと所望すると、それを見せてもらえました。こうして、くり返し、くり返し、彼は望むものをすべてかなえられました。

しかし、ついに彼は、それらのものに飽きあきしてしまいます。それから彼は、白衣の人を呼び寄せていました。

「わたしは何かしてみたいのですが」

「申し訳ありませんが、それこそ、ここであなたに差し上げられない唯一の事柄なのです。」

そこで男はいいました。

「私は吐き気を覚える。私は飽きあきました。それなら、むしろ、私は地獄にいる方がました。」すると白衣の人は叫び声をあげてこう語りました。

「一体、あなたは、どこにいるとお考えだったのですか。」



17歳の若者の犯罪が社会問題になっている。今の若者、子供たちが変わって来ているのだろうか。私は、そうは思えない。むしろ社会のシステムが変わってきているように思える。

私たちの周りは、余りに便利になりすぎているのではないだろうか？水道をひねると、水ばかりかお湯も出る。ビデオやCATVで家にいながらにして映画を楽しめる。電子レンジでチンすれば、有名ホテルのスープが朝の食卓を飾ることも可能だ。

ちょっと不慣れた生活の中に自分自身を置いてみると、さまざまな工夫と発見が生まれてくる。そんな中に「フツツ」と微笑みたくなるようなささやかな幸せがあるように思える。(濱)